

〈資料紹介〉『曹洞諸寺院縁起志 全』

皆川 義孝

The Research on Materials about 'Soto-syujin-englishi-zen'

Yoshitaka MINAGAWA

本論は、平成二十一(二〇〇九)年に駒沢学園寺院資料研究センターが収集した元禄十五(一七〇二)年に編纂された弘前城下の曹洞宗寺院の記録、『曹洞諸寺院縁起志 全』(以下、「本史料」と略す。)を全文紹介するものである。

本史料の内容は、序文、反例、「大檀那仏法婦依縁」、「長勝大檀那仏法婦依縁」、弘前城下の曹洞宗の四十四か寺の開創以来の縁起や歴代住職などの記録、「太平山記」、「兼平山居伝」のほか、六つの庵の由来があり、最後に革秀寺十一世の顕古元牛の奥書からなる。

本史料に登場する寺院をみると、長勝寺、耕春院(現在の宗徳寺)、革秀寺をはじめとする弘前城下の四十四か寺の曹洞宗寺院が登場するが、これらの寺院は現在、青森県弘前市を中心に存在する。すなわち、本史料は、現在の弘前市を中心とした地域における曹洞宗寺院の展開を明らかにする上で大変貴重な史料といえる。

本史料の原本はすでに失われているが、本史料は原本の副本である可能性が高い。すなわち、本史料を全文紹介することは、弘前地域における曹洞宗の展開を紐解く上で大変有意義なものと判断し、本論において本史料の全文翻刻を試みた。

キーワード・曹洞宗、寺院縁起、弘前

一、はじめに

平成二十一（二〇〇九）年に駒沢学園寺院資料研究センターでは、元禄十五（一七〇二）年に編纂された弘前城下の曹洞宗寺院に関する記録、『曹洞諸寺院縁起志 全』（以下、「本史料」と略す。）を収集した。

本史料の内容は、耕春院十三世の不説黙道の序文、反例、本史料に収録された寺院名や門派のリストである「大檀那仏法婦依縁」、長勝寺十六世の船叟徒泊（一七一九年没）が記した同寺開基に関する記録「長勝大檀那仏法婦依縁」、ついで弘前城下の曹洞宗寺院の開創以来の縁起や歴代住職などの記録、そして長勝寺の寺史である「太平山記」、「兼平山居伝」のほか、六つの庵の由来があり、最後に革秀寺十一世の顕古元牛の奥書がある。また、これまでの伝来過程で返り点などの加筆が施されている。

本史料には、弘前城下の長勝寺、耕春院（現在の宗徳寺）、革秀寺をはじめとする四十四か寺の曹洞宗寺院が登場するが、これらの寺院は、現在の青森県弘前市を中心とする地域に存在する。また、本末関係から分類してみると、通幻派の長松寺とその末寺や孫末の二十五か寺、通幻派の耕春院（現宗徳寺）とその末寺や孫末二十八か寺、最後に、太原派の隣松寺とその末寺九か寺が登場する。その大部分の寺院は、通幻派に属する（三十三か寺）。

すなわち、本史料は現在の青森県弘前市を中心とした地域における曹洞宗寺院や、門派からみれば通幻派の展開を明らかにする上で大変貴重な史料といえる。

本史料の別本として、『弘前城下曹洞諸寺院縁起』（東京都河村孝道

氏所蔵。以下、『河村本』と略す。）がある。『河村本』はすでに『続曹洞宗全書 第十巻 寺誌・史伝』（一九七六年）で全文翻刻されている。『曹洞宗全書 解題・索引』（一九七八年）によれば、『河村本』の原本は、長勝寺十六世の船叟徒泊が発願し、弘前城下の曹洞宗の四十四か寺の開創縁起と歴代住職などを穿鑿し、耕春院十三世の不説黙道が編述し、革秀寺十一世の顕古元牛が書写したものである。その後、この原本は紛失したため、『河村本』は寺社方録所で所持していたものを書写し作成されたという。

『河村本』は、現在、駒澤大学図書館で複製本を所蔵しており、内容を確認できる。そこで、本史料と『河村本』の相違点から、本史料がどのような性格の史料か指摘しておきたい。

本史料と『河村本』の相違点について、次の四点が指摘できる。

- ① 『河村本』では、序文末尾の不説黙道、奥書末尾の顕古元牛の印の部分は、それぞれ「判」、「印」と墨書されている。しかし、本史料では序文末尾の不説黙道（図2）、奥書末尾の顕古元牛（図4）の印は、それぞれ「不説」、「顕古」の黒印が捺印されている。また、「長勝大檀那仏法婦依縁」の末尾にも「大平山長勝寺」の印（図3）が捺印されている。
- ② 『河村本』の冒頭には、同本の成立までの由来が記述されているが、本史料にはみられない。
- ③ 本史料のみ「大檀那仏法婦依縁」と「太平山長勝寺」の間に、元禄十五年七月七日に長勝寺十六世の船叟徒泊が記述した「長勝大檀那仏法婦依縁」が収録されている。
- ④ 『河村本』では長勝寺の歴代住職の記述で十四代から十六代が

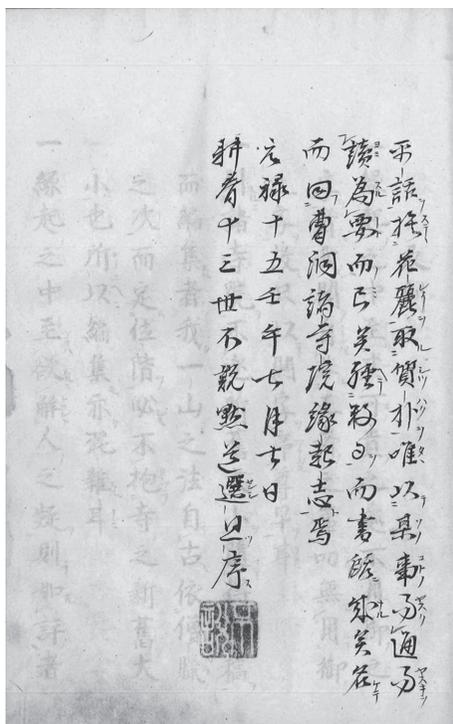


图2 『曹洞諸寺院緣起志全』序文（末尾）

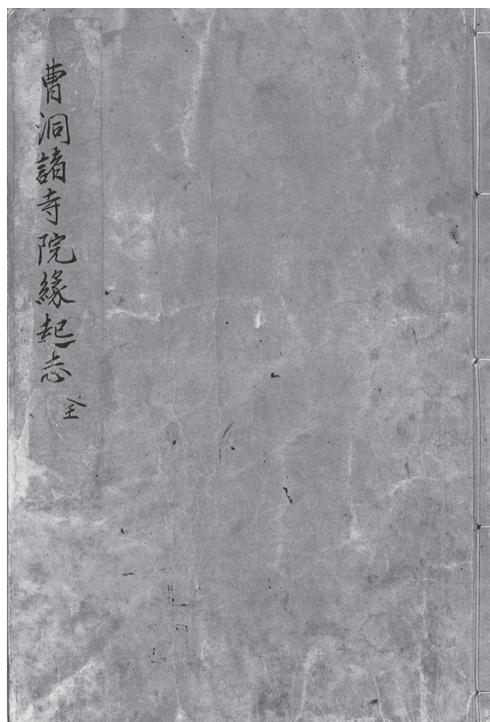


图1 『曹洞諸寺院緣起志全』（表紙）

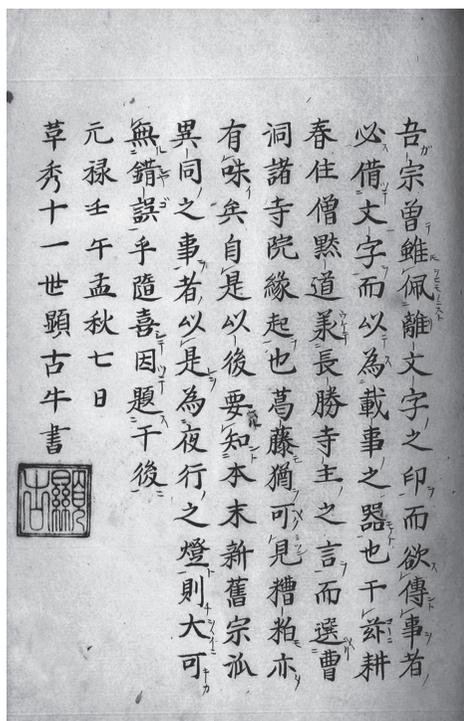


图4 『曹洞諸寺院緣起志全』奥書（末尾）

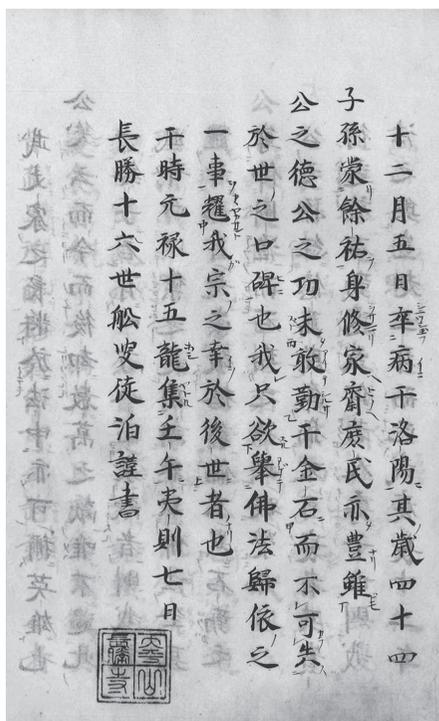


图3 『曹洞諸寺院緣起志全』
「長勝大檀那仏法婦依縁」（末尾）

省略されていように、すべての寺院において歴代住職の記録などで省略部分が多数みられる。しかし、本史料には各寺院の開創から元禄十五年段階までの歴代住職に関する詳細な記録がある。

以上のことから判断するに、本史料には不説黙道・顕古元牛や長勝寺などの、原本を編集した関係者や寺院の印が捺印されていることや、本史料は『河村本』よりも詳細な記述内容であることが指摘でき、本史料は紛失されたとされる原本の副本である可能性が高いと考えられる。

本史料が副本であることの詳細な検討は、今後の課題とさせていただきたいが、その前提として本史料の全文翻刻を試みたい。この作業は、弘前をはじめとする曹洞宗や通幻派などの門派などの地方展開の歴史に新たな視点を提示する上でも大変意義のあることと思われる。

なお、史料の翻刻にあたり一部の固有名詞を除き、史料本文の字体は原則として常用漢字としたことをお断りしておく。また、史料の翻刻にあたり、鈴木努氏に特段のご教示を賜ったこと、心からお礼申し上げたい。

【参考文献】

『続曹洞宗全書 第十卷 寺誌・史伝』曹洞宗全書刊行会、一九七六年。

『曹洞宗全書 解題・索引』曹洞宗全書刊行会、一九七八年。

二、『曹洞諸寺院縁起志 全』の紹介（翻刻）

〔表紙題名〕
『曹洞諸寺院縁起志 全』

曹洞諸寺院縁起序

爰且主^{コ、ニ}神仏之事^ヲ、伝^ル令^ヲ於諸宗^ニ者^ノ、某^{ソレガ}申告^テ云ク、寺^ノ之多^キ于茲^ニ、各^ク應^ニ有^レッテ縁^シ而起^ス焉、上^ニ司^リ大寺^一、下^ニ至^{マテ}于野寺草庵^ニ、田島寄附^ノ之、因^ニ山林受用^ノ之縁、○開山祖師^ノ之出所、○開基檀越^ノ之氏譜、○暨^ニ本末^ノ之次第、○新旧^ノ之甲乙、○草創再興^ノ之年月日時、○旁^カ出^シ、曲記^シ備^ヘ諸遺忘^ニ、主事^ヲ者^ノ時^ヲ見熟^ク覽^ミ、記憶^在ニ^ラ乎^ニ心^ニ、則^チ從^レ尋^ルニ^ニ應^レ問^イニ、暗中^ニ模索^シ、亦^チ可^キ知^カ乎^ニ、公等^ノ突^レ不^レ勇^レ為^ル於^レ是^乎、我宗掌^ル僧事^ヲ者^ノ、某^シ申^テ承^テ言^フラ^リ而歸^リ、俾^テ該寺院^ヲ正^ス其^ノ事^ヲ、雖^ト下^下寺院^ニ俄^ニ搜^リ古篋^ノ之中^ニ、求^メテ古老^ノ之說^ヲ、手乱^レ脚^上忙^シ、而^チ顯^ル知^レ著^シ言^フ者^ノ、四五十寺^ノ之中^ニ、不^レ可^レ過^ル二^ニ一^ノ兩寺^ニ也、雖^レ然^ト事^ト不^レ可^レ止^ム、知^レラ^レ之^ヲ為^シ知^レヤ^ク之^ヲ、不^レ知^ラ為^シテ不^レ知^ラ、草稿既^ニ聚^ル、因^ニ命^ジ云^ク、吾^レ老^矣矣、目力特^ニ疲^ニ、爾其^レ選^レ之^ヲ、不^レ及^ニ固辭^スル^ニ、退^キ而^チ以^テ為^ス、凡^ソ文章^ノ之作^ヲ、有^ル文字^一者^ノスラ、猶^ヨ辭讓^ス、我^レ豈^ニ敢^テ哉、然^レトモ而^チ今^マ此^ノ選述^ハ者^ノ、去^リ難^ク字^ヲ用^イイ^ニ平語^ヲ、托^テ花麗^ニ取^ル質朴^ニ、唯^ニ以^テ某事^ヲ易^ク通^ス易^ク讀^ム、為^ス要^ト而已^矣、^今經^ニ數日^ヲ而書^キ既^ニ成^ス矣、名^ヲケテ而^チ曰^ク曹洞諸寺院縁起志^ト焉、

元禄十五壬午七月七日

耕春十三世不説黙道選^ス且^シ序^ス〔印文・不説〕

〔反例〕

一、縁起^ノ之中^ニ、至^リ其^ノ可^レ貴^ク之處^ニ不^レ用^ヘ御^ゴ之字^ヲ者^ノハ、我^レ聞^ク

自^レヨリ^ニバ非^ル王者ノ事^ニ、叨^ミ無^レ用^ニ御^ル之字^一、故^ニ只^ニ以^テ闕^ク字^一序^ニ尊卑^一耳、

一、列^ニ諸寺院^一、不^レ逐^ニ新旧大小^一、隨^ツ得^ルニ草稿^一而編集^ス者^ノハ、我^ガ一山^ノ之法、自^レ古依^テ僧臘^一之次^ニ而定^ニ位階^一、必^シ不^レ抱^ク二寺^一之新旧大小^一也、所以^ニ編集^モ亦^ク混雜^ス耳、

一、縁起^ノ之中、至^ツ欲^ス解^ニ人^一之疑^一、則^チ如^レ評^者者^ノ圈^外ニ施^ス之、見^ル者勿^レ過^ル過^ルコト矣、

一、住僧之中、隨^ニ有事者^一則^チ如^レ傳^ノ者^一、数字置^ニ於^ニ名^一之下^一也、然^レトモ非^ニ因^ニ本録^一而書^スル^ニ也、知^ル者^ノ証^レ之^ヲ、

一、諸寺院縁起、多^ク出^ツ于古老^一之伝説^一焉、及^レ見^ルニ其^ノ草稿^一、而艾^カ繁^キ補^フヲ寡^キヲ、往^ツ往^ニ潤色^ス、若^シ於^レ有^ルニ相違^ノ之事^一、則^チ勿^レ罪^レ我^ヲ矣、

一、今^ノ之諸寺院者、一山^ニ而^ニ非^ズ各山^一也、何^ソ各^ク立^ルヤ山号^一也、若^シ可^キハ喚^ニ山号^一、則^チ不^レ可^カ過^ク長勝・耕春^ノ之両寺^一乎、云^ク、其^ノ古^ヘ者雖^ト各^ニ立^スト於^ニ一方^一、慶長年中、合^セテ而^レ為^ニ一山^一也、今^マ尋^ニ其^ノ本^一故^ニ立^ル山号^一耳、強^ク非^レ謂^ハ喚^レ之^ヲ也、

大檀那仏法帰依縁

長勝寺 派通幻 耕春院 派通幻

革秀寺 派通幻 隣松寺 派大源

藤先寺 派通幻 常源寺 派通幻

海蔵寺 派通幻

梅林寺 派通幻

亨^卷徳寺 派通幻

寿昌院 派通幻

宝積院 派大源

正光寺 派月船

正岳院 派大源

長徳寺 派大源

嶺松院 派通幻

永泉寺 派通幻

蘭庭院 派大源

恵林寺 派通幻

福寿院 派大源

宝泉院 派大源

常光寺 派青森村派

龍淵寺 派楠木村派

雲祥寺 派通幻村派

宗禪寺 派荒川村派

宝泉寺 派深浦村派

太平山記

清安寺 派通幻

安盛寺 派通幻

盛雲寺 派通幻

川龍院 派通幻

月峯院 派通幻

滿蔵寺 派通幻

天津院 派通幻

鳳松院 派通幻

松伝寺 派通幻

高德院 派大源

泉光院 派通幻

照源寺 派通幻

全昌寺 派通幻

陽光院 派大源

高沢寺 派通幻村派

長円寺 派飯詰村派

正法院 派通幻村派

東福寺 派小通村派

保福寺 派大源村派

兼平山居伝

梅田村庵

小泊村庵

十腰内村庵

中野目村庵

慈雲院

通効

長勝大檀那仏法帰依縁

夫文武ノ之於レ將也、如クニ鳥ノ之両翼、亦若シ車ノ之両輪、并セテ全ワスル
之者ノ之曰フ良將ト、彼ノ隻翼単輪ノ之士、縦將ニ百万ノ之衆ヲ、豈ニ能ク飛
運センヤ、雖レ然リト、全セテ其ノ体ヲ、両翼難ク生シ、不レバ堅ク其ノ軸ト、両輪

難施、緊恭ニ奉レ、窺ニ我カ大檀那前、太守右扶風法名 瑞祥院殿ノ之
貴躅、以テ神仏儒ノ之三ヲ、先ツ全フシ其ノ体ヲ、堅シ其ノ軸ヲ、而シテ後ニ文ト

之与レ武、両翼双生シ、両輪兼施ス、是以飛ニテ千高ニ而無レ倦、
輾ニ于遠ニ而不レ耳、千變万化七縦八擒、從ニ心ノ所レ欲スル、不レ踰ニ

法度ヲ、古今無双ノ之良將、求メテ之異国ニ、猶不レ為レ多、況ンヤ本朝乎、
公會延長勝八世格翁禪師於 城内ニ、云ク、我婦ニスルコト 仏法ニ、既ニ

有レ年矣、昏昧ノ之甚シキ、未得ニ道理、請示ニ一句ヲ、于レ時禪師拳ニ普
化鈴鐸ノ話、密密ニ説示、公自是澄ニ、神話頭ニ、為レ寢食ニ

者ノ、幾乎一兩月ニ、一旦廓然トシテ大ニ徹ニ其ノ旨、直ニ呈ス所解ニ、格翁
印可シテ云ク、將謂 公ハ者武夫家ノ之良將ト、於ニテモ亦ク可称ニス英

雄ト也、公笑ツテ云ク、而今而後却數万ノ之敵、唯不レ過此ノ一鈴子ニ、
若シ有レ四方八面 來リ敵者、則我旋風打ニ、而以禦之、是レ

所謂非以下ニ以テ仏法ヲ全スル其体者上耶、自是崇ニ敬ニ格翁ヲ、偏 不レ

異ニナラ石勤之尊フニ仏凶澄、而石勤之孫無レシ暇ニ榮ルニ也、公ノ之孫

經ニ億万シ年ヲ、猶不レ可レ衰者ノハ、其ノ実行邁ニ於石勤ニ遠哉、
俾ニ若人壽ニ千世ニ、則我法ノ之興ル、豈ニ翅三郡而已哉、慶長十二年

十二月五日卒ニ、病ニ于洛陽ニ、其ノ歳四十四、子孫蒙ニ余祐、身 修
家ハ齋庶民亦タ豊ニ雖レモ、公之徳公之功未敢勤乙于金石ニ、而不レ可カラ

失ニ於世ノ之口碑也、我レ只欲スル拳ニ仏法帰依ノ之一事ヲ、耀ニ 我宗ノ
之幸ニ於後世ニ者也、

于時元禄十五龍集ニ壬午ニ夷則七日
長勝十六世船叟徒泊謹書

太平山長勝寺

長勝禪寺者、大永年中所レナリ創也、原ルニ 大織冠苗裔 大浦光信公、
微ニ時築ニ於種里村ニ、使シムニ諸士ヲ講レ武、其ノ意ニ 欲スル并ニ

吞セント 八方者乎、病奪ニ其ノ志ヲ、既ニ及ニ属續ニ、因ツテ而囑云ク、没
後俾我カ之遺体 帶ニ甲冑暨螺貝ニ、直ニ須立形ニシテ而埋葬ニス也、又タ

云ク、我レ會テ以テ海蔵寺ヲ為スニ、追薦ノ之寺ト、然レトモ没後為レ我カ別ニ可レト
營ニ一寺ヲ、言イ已テ易レテ實、于レ時大永六年十月八日也、於レ是 盛信

公請ニ菊仙禪師ヲ、殯殮葬送、皆ニ以テ法故ヲ、法名号ニス 長勝隆栄大居
士ト、然シテ後ニ如ク遺囑、營メリ一精舍ヲ於葬地ニ也、既ニ及ニ落慶ノ之日ニ、

而施ニ田數百歩ヲ、摘ニ取ニ法名一ヲ、号ニ長勝寺ト、即令シムニ菊仙ヲシテ
為ニ開山祖ト、蓋菊仙ハ者越前州人ナリ、得テ法ヲ於春沢印ニ、五六年來、

翰^{タケ}晦^{クワイ}于茲^{ココ}、此^{コノ}日出世^{シテ}道風^{ミチカゼ}弥^ミ盛^{サカ}、自^{ヨリ}是^レ是^レ隨^イ、太守^{タクシ}之所^ノ築^ク、
移^{ウツ}境^{キマリ}堀^{ホリ}越^ヘ、亦^モ移^{ウツ}吉田^{キクノ}、其^ノ間^マ、当^タ家^ノ不^レ衰^ヘ、不^レ榮^ヘ、施^セ及^ビ、
為^シ信^シ公^ニ也[、]公^ハ也^者、光^{ミチ}信^ノ公^ノ之^ノ玄^ミ孫[、]為^シ則^シ公^ノ之^ノ長^シ男[、]当^タ寺^ノ之^ノ中[、]
興^{キナ}開^キ基^{也、}当^タ此^ノ時[、]而^{シテ}三^郡全^ク収^メ于^テ掌[、]波^ナ且^レ浸^ニ隣^ノ境[、]公^ノ講[、]
武^ノ之^ノ暇^{マ、}就^ツ長^勝八^世格^翁和^尚、而^{シテ}時[、]參^リ窮^ス普^化鈴^鐸之^ノ話[、]
因^ニ而^{シテ}命^シ云^{ク、}我^レ百^年之^ノ後[、]可^ク鑿^ニ鐸^子於^テ影^堂及^ヒ牌^前、
必^ク勿^レ忘^ル、コト^{矣、}其^ノ鏗^響、而^{シテ}在^リ于^テ今[、]爾[、]來^リ崇^敬格[、]翁^ノ一^邁、
于^テ尋^常、增^シ田[、]五^成十^石、広^レ境^ヲ殿^堂モ^又改^メ造^ル者^ノ多^ク矣[、]翁^既二^倦寺[、]
務^ニ強^シ退^院ス、公^モ亦^ク不^レ快[、]就^ニ醫^ニ于^テ洛^陽、而^{シテ}竟[、]無^レフシテ
療[、]以^テ三^慶長^十二^年十^二月^五日[、]卒^ニシテ^マ于^テ旅^館、相^イ從^フ者^ノ一^寺ニ
火^葬シテ、齋[、]貴^骨於^テ故^郷、改^メ葬^{シテ}以^テ勤^ニ茶^毘之^ノ法[、]以^テ公^ノ之^ノ平[、]
日^婦依^テ僧^ナル^{ヲ、}俾^ニ退^院老^僧為^シ二^乘炬^之導^師、法^名奉^レ号^シ瑞^祥院[、]
殿^天室^源棟^公大^居士^ト也[、]葬^事既^畢、建^ニ高^廟於^テ革^秀寺[、]安^ニ置[、]
尊^像於^テ長^勝寺[、]迄^ニ于^テ今^ニ奉^ニ如^シ在^リ供^養焉[、]自^レ是^レ信^牧公^不レ^厭
巨^費於^テ建^立、修^ニ成^シ草^業、張^ニ皇^幽之^ノ慶[、]長^十五^年、移^ニ城^ヲ弘^前、
相^尋移^ニ長^勝寺^ヲ於^テ郭^外、其^ノ余^ノ寺^院、索^ニ居^スル^方二^者ノ[、]聚^シメ^テ而^シ置^ニ
於^テ左^右、仏^殿山^門尽^シレ^テ美[、]結^構、公^既卒^ニ病^ニ于^テ江^府、雖^シ三^有レ^テ
由^シ而^シ葬^ニ於^テ天^台宗[、]長^勝寺^ニ亦^ク立^レ、牌^建、廟^ヲ、每^年七^月十^四日[、]
一^山衆^來シテ、修^ニ大^施餓^鬼、而^{シテ}以^テ追^薦、其^ノ費[、]自^レ公^成レ^リ之^{ヲ、}○
且^ツ此^ノ寺^ノ之^ノ本^山古^今不^レ詳[、]因^ニ茲[、]近^年泝^リ於^テ其^ノ源[、]以^テ加

州^宗德^寺、且[、]為^シ二^本寺[、]俟^ニ春^沢之^ノ道^場顯^露之^日而^シ已^{矣、}亦^ク僧[、]
祿^職ノ事[、]非^ニ唯^受ル^ノミ[、]太^守ノ命^{ヲ、}兼^テ受^テ永^平寺[・]總^持寺[・]関[、]
東^三箇^寺之^ノ令^{ヲ、}而^{シテ}至^マ于^テ今^ニ、徒^レ領^ス衆^者也[、]開^山菊^仙印^和尚[、]
二^代松^潤菊^和尚[、]越^前州^{人、}弘^治二^{年、}受^ニ輪^次之^ノ請[、]從^リ亨^德寺[、]
住^ニ於^テ丹^州永^沢寺[、]三^代密^田宥^和尚[、]当^タ地^人也[、]四^代独^心奕^和尚[、]出[、]
処^同前[、]五^代心^庵旭^和尚[、]生^縁不^レ詳[、]六^代桂^山嫩^和尚[、]当^タ地^人也[、]
七^代直^翁道^和尚[、]仙^台人[、]勅^{シテ}特^ニ賜^フ弘^超北^皓禪^師、八^代格^翁逸^和尚[、]
近^江人[、]勅^{シテ}特^ニ賜^フ義^鑑增^輝禪^師、其^ノ為^レ人^ト也[、]不^レ誇^ニ榮^利、
不^レ貌^ニ貧^賤、唯^法ノ^ミ維^務、故[、]太^守立^テ而^シ稱^シ師^{ト、}庶^人尊^シ而^{シ、}
為^レ仏^{ト、}臨^終ノ日[、]拳^レ世^有二^失國^宝之^ノ歎[、]宜^カ哉[、]九^代仁^室恕^和尚[、]
羽^州人^{也、}十^代然^庵突^和尚[、]生^國不^レ詳[、]十^一代^独翁^宿和^尚、武^州人[、]
在^住之^中、信^牧公^新建^ニ山^門、獨^翁為^レ記[、]八^月四^日唱^レ偈^ヲ終^ル焉[、]
其^偈云[、]徹^徹徹^本ト、自^然倒[、]入^ニ黃^泉、如^シ箭^ノ、花^ハ在^レ樹[、]
月^ハ在^レ川[、]十^二代^蛇鶴^龍和^尚、當^タ地^人、退^院ノ^後、相^イ從^フ者^ノ唯^一
僕^耳、預[、]知^リ死^期、淨^衣沐浴[、]自^ラ讀^ミ懺^法、手^調葬^具、安^然シテ
閉^レ目[、]十^三代^在州^宅和^尚、當^タ地^人ナリ[、]此^ノ師^在住^ノ之^比、當^タ境^内容[、]
院^ノ之^前、栽^レ桜^為二^列樹^{ト、}春^來滿^花之^ノ節[、]來^リ見^者日^數百^{人、}歌[、]
舞^乱、枕^貝、酒^食妨^道業[、]人^皆謂^レ無^レ益^于法^{也、}於^レ是^乎、在[、]
州^与二^衆僧[、]勦^力鑿^穿、捨^之換^ニ以^レテ^ス杉[、]有^リ古^人自^ラ栽^ニ移[、]
松^一与^三山^門為^ニ境^致者[、]雖^シ古^今隔[、]同^一類^ノ之^ノ人^乎、十^四代^聖

眼祝和尚、当地人、其意口柔和ニシテ、而為レニ世ノ用ララル、故ニ寺ノ之繁榮、絶ニ勝メ古今ニ、新造ニ書院ヲ、又改ニ衆寮ヲ、十五代善嚴積和尚、羽州人、コトフキ 寿六十九ニシテ而終ル焉、火葬之灰、五色得ニルコト、舍利ヲ、無数其ノ色加シ黄金ノ、十六代船叟泊和尚、当地人、新立ニ方丈作リ土蔵ヲ、又新安ニ開山老和尚之像ヲ、又改ニ先住僧ノ数代之塔ヲ、又改ニ造本尊釈迦・脇士文殊・普賢像ニ也、太守信政公寄進也、当境内 影堂、○牌堂、○廟塔、○仏殿、○経堂、○庫裡、○仏具蔵、○山門、○中門、○総門、○鎮守堂、○塀、○柵、○廻廊、○山門前後ノ橋、寺庵通路橋、○其外下馬札、衆寮ノ厠等、自 公建之、纔モ有レハ所損、則主事者加ニ修理ニ焉、

長福山耕春院

耕春院ハ者、為ニ武田紀伊ノ守守信公、天正年中於ニ堀越村ニ建ツ之ヲ、蓋シ 守信公ハ者、為則公ノ之弟、為信公ノ之実父也、永禄十年卒ニシテ于南部桜庭城ニ、法名号ニ 祖岑寿宗大居士ト、因レテ茲ニ 為信公、及レシト、ナリヲニ 告テ諸士ニ云ク、我レ曾マ欲レニ 薦ニ亡父母ヲ、累 年無シ暇マ職務、今マ幸ニ国家閑暇、欲ス為ニ之營ニ 両梵刹ニ可ナランマ也耶、左右皆ナ称シ好シト、因ツ先ツ建ニ耕春院ヲ、尋立ニ貞昌寺ヲ、各ク俾ニ高僧ヲシテ董ニ其ノ席ヲ、施ス田數頃ヲ、耕春院、百石 蓋シ耕春開山明室ハ者、越ノ後州人、玉宗八世ノ之孫也、及ニテ晩年ニ而家ニ 為信公之鼎命ヲ於田舎館村ニ、住職數年、ホカシ 寿過ニ古稀ニ終ル焉、連室繼居ル焉、室ハ也者 勅特賜之沙門ニシテ也、

而 信牧公ノ之婦依僧ナリ也、先ニ於是ニヨリ矣、為信公ノ之第二子、卒ニシテ于江府也、信牧公使ニ連室ヲシテ追薦ニ、自是俾ニ東根一宗ノ之寺院ヲシテ属セ於耕春門下ニ、至ルマテ于今ニ、三仏事・両祖忌・道元忌・臘月七晝夜ノ坐禪等、衆来シテ相共ニ行フ之、其ノ余ノ世法モ亦粗從レ令ニ者ナリ也、慶長年中、移ス境ヲ弘前ニ、素 属ニ於耕春門下ニ者、皆ヲ賜フ地ヲ於総門ノ之中ニ矣、○且耕春院ハ者、長勝寺同派ニシテ、而玉宗禪師ノ之末流也、然レトモ而本山未ケレ詳、是以間 以ニ加州宗徳寺ヲ、且 為ニ本寺ト也、若シ後來本山出現セバ、則約スル還ニトサ於其ノ本ニ而已矣、開山明室哲和尚、二代連室奕和尚、当地人也、勅ニ特ニ賜ニ 弘濟道光禪師ト也、三代梅翁察和尚、生所同レ前、四代龍外鑑和尚、生国不レ詳、五代年室寿和尚、六代乘山宗和尚、七代桂岩仙和尚、八代中巖堂和尚、四老共ニ当地人ナリ、就レテ中ニ堂ガ之為レ人也、切ニ于法ニ孝ニリ于母ニ、寿キ六十余ニシテ而終ル焉、止ニ遺体ニ三日、拜スル者成市、九代格外逸和尚、当地人、更ニ造衆寮ヲ、十代龍心沢和尚、生縁不レ詳、臨終ノ之日書シテ備ニル于遺忘ニ者、自攜 去埋却不レ貽、其ノ夜無シ病終ル焉、十一代門骨宗和尚、仙台人、改ニ作ル山門及ヒ廻廊ヲ、其ノ費 傍嶋氏某甲施セリ之、十二代万州龍和尚、能州人ナリ、取リテ信ヲ於人ニ、而檀縁益ク輻輳、故ニ改メ作リ仏殿ヲ、新ニ建ニ書院ヲ、退院後終ル于近江ニ、十三代不説道和尚、当地ノ之産、元禄十三年十二月十五日、仏殿及ヒ蔵經七千余卷、雜書二千余卷、一時ニ回禄、惜乎、

津輕山革秀寺長壽寺末寺

革秀寺ハ者、其古ハ長勝八世格翁和尚、隱遁ノ庵也、旧址在リ於藤先村ニ、慶長年中、換ニ処ヲ駒越ニ、曾テ為信公參法ニ于格翁ニ、略有リ所レ得、是以テ退院ノ之後モ、不レ減ニ四事供養ヲ、雖トモ公既ニ卒ニシテ病

于洛中ニ、葬儀偏ニ當ニ於故郷ニ、翁以テ退院ノ之服、出テ、而為ニ導師ト、因テ茲レニ信牧公、以テ庵ノ之地ヲ為ニ廟所ト、又テ以テ廟ノ之側ヲ為ニ殿堂建立ノ之地ト、寺ラ已ニ成ルル矣、則チ名津輕山革秀寺ト、施田數頃ヲ、石

蓋以テ津輕ノ名ル山ニ者ノハ、三郡都括囊者、為信公ノ之武功ナリ也、其ノ廟建ニ于茲ニ示レ所以、子孫經ニ永年ヲ猶ヲ不レ可忘ル者乎、毎年七月五日、使一宗之師學ヲ修セテ大施餓鬼者ハ、薦ムトナリ其ノ冥福ヲ、其ノ費

用皆ヲ從レリ公當レム之ヲ、開山格翁和尚、二代日山朔和尚、下総人、此ノ師稟レ質ヲ異レナリ人ニ、常ニ無シテ慮知、而如ニ童兒、不レ知ニ物ノ之數、不レ察入ノ之色、喜怒不レ慎レ処、憎愛不レ依レ人ニ、只從レ性ニ放曠、

或時有ニ遠方ノ之行、以下内ニ錢財者上、置ニ之於広坐ノ之中ニ、自剪下草木ノ之有刺者上、挿ニ其ノ四面ニ云ク、恐レ賊難ニ如之何、道ユイテ出テ去ル、日用ノ之事推之知レ之、如レク外似レトモ至愚極陋ノ

人ニ、而内チ純一ニシテ無シ偽、於法亦未ニ愚昧、古ニ云ク大人者、不レ失其ノ赤子ノ之心ト也、此ノ人之謂乎、三代盤庵龍和尚、羽州人也、四代生三天和尚、当地人也、五代放室鷹和尚、出処同前、六代仁庵

堯和尚、生縁同前、七代証山道和尚、生縁同前、八代白峯田和尚、常

州人也、九代龍中洞和尚、当地人、改ニ本尊ニ造リ須彌壇ヲ、十代彬翁宗和尚、生縁同前、十一代顯古牛和尚、生国奥州二本松、当境内瑞祥院殿ノ之廟并仏殿・中門・橋・稻荷宮、從レリ公立レツ之ヲ、

蟠龍山隣松寺本詳

隣松寺ハ者、享祿年中基ニ於吉田村ニ、慶長年中、移シ弘前ニ來、開山祖師ハ者直顯寿泉、開基檀那ハ者華嚴春公庵主、共ニ不レ詳ニ其ノ來由也、其ノ後又タ有リ木庭ノ袋、伊勢平ノ信清者、施ニ私産ヲ為ニ公供料ト、其

妾斬崎氏ノ之女、信清没後ニ使ニ画工ヲシテ凶ニ仏涅槃像ヲ、寄ニ于長勝寺ニ、蓋シ薦ニ信清也、可レ謂フ無シ彼此ノ之隔行ニト平等之施ヲ者ト也、于レ茲又ニ元祿五年四月四日、太守ノ之聖善、法名久祥院殿物故

乃チ建ニ廟ヲ於隣松寺ニ、施ニ田數頃ヲ、石百也、且平日所レ愛ル之花木移シ植フ于廟ノ之前後左右ニ、想フニ夫欲レ世ニ於甘棠之遺愛ヲ者乎、又タ每歲七月四日為ニ其ノ追薦、自レ公營ニ大施餓鬼也、又タ隣松寺ハ者

此ノ処ハ大源一派ノ之本寺シテ也、而其ノ稱ニ末寺ト者大小九箇寺迄レ今ニ世事法儀不レ懈勤之、而住僧ノ之數鮮者ハ、或修行未熟ノ者、或ハ移ニ席ヲ於他ニ者、皆ナ無レ立レルコト牌、是以少而已矣、属日現住雷

峯欲レ勸ニ業惡ノ衆生、募ニ建ニ千軀地藏堂於境内ニ、兼ニ安ニ閻魔王等事者、定メテ有ニ于別記ニ、開山直顯泉和尚、二代梅英香和尚、武州人也、三代月寒鶴和尚、当地人ナリ、此ノ師在住十四年、脇不レ安レ席、設ニ座ヲ室中ニ、靠ニ頭柱上ニ、工夫一片、更ニ無レ懈倦ノ之色也、大概以テ

為レ常トナ、没後見レバ其ノ柱ヲラ、則チ頭ノ之痕印而如シテ、諸弟皆名ニテ坐禪柱ト、而毎レ随ニ拜ス日ノヲ云フ、又此ノ師退院ノ之後、預レ修メ葬儀ヲ、生身入レリ棺、令レ諸弟ヲシテ昇レ遷レ庭三運、令レ老僧ヲシテ唱ニ挙火ノ之偈、念誦読経、移レ時ヲ而後、自ラ出棺来リ、告ニ諸弟ニ云ク、我カ之葬ハ事既ニ畢、没後必ス勿レト營ニト後事ニ矣、凡ソ人ノ之没後ニ、有レ手沢一焉、有レ口沢一焉、此ノ老貽ニ此ノ頭沢一、而使レ諸弟ヲ慕一与、可レ不振乎、其逆ニ修メ葬儀者ハ、厭レ諸弟ノ之煩、於厚葬ニ者乎、人皆謂レ預修ノ之甚シキ者也、四代喜山悦和尚、五代虎山長和尚、共当地人也、六代俊鶴良和尚、越前州人、新ニ造リ衆寮・門・祠堂・土蔵・方丈ニ也、又改ニ本尊ヲ、立ツ須弥壇、其ノ外仏殿・室中等、尽ク修復ス、此ノ寺ヲ無シ太守寄附田、至ニ俊鶴、而始メ賜ニ米三十俵也、至ニ雷峰ニ、改メ成ニ百石ト也、七代水岩滴和尚、能州人也、八代雷峯雲和尚、越後州人、在住之中、久祥院殿物故シ、此ノ僧秉炬、自レ是レ寺益興焉、因レ而成ニ中興開山ト也、

長雲山藤先寺藤先寺

藤先寺者、天正年中ニ所ナリ創スル也、開山中岳衲衣綴鉢、而蟄ニ于藤先村ニ、于レ時、為信公ノ之婦人ニ有レ三兩弟一焉、慶長年中、有レテ故而同日ニ死ス、婦人為ニ其ノ追薦ニ供ニ養ムルコト中岳、偏ニ如ニ昆季、其ノ比、為信公、為ニ羽州大山ノ之城主悪吉氏、聊有ニ私通ノ事、而世乱未治、処処ニ設ニ新闢、鷄鳴亦ケ不レ容、公以為、乱世

使イスルコト僧ヲ、古猶ヲ有リト之、今マ豈レ不然ヲ、乃チ令ニ中岳私達書ヲ、岳不レ及ニ固辭スルニ、故ニ入レ難所、及ニテ往レ而還レ、過ニ羽州盲鼻ノ関、関主怪ミ之、椅柄ヲ劊ニ其ノ鼻ヲ、岳雖レ殘ニ僧形ヲ、以テ不レ失レ書ヲ而為レ幸イト焉、漸達ニ故郷ニ、及レテ捧ニ返翰、為信公欣拊無レ止ムコト、而立トロニ賜ニ田數百歩、於レ是岳転レ庵為レ寺ト、自ラ成ニ開山鼻祖ニ也、公亦有レ女、以ニ津輕左馬一為ニ一快婿ニ也、慶長八年四月廿一日、忽爾ニ掩テ粧、則チ建ニ牌於藤先寺ニ、増ニ田數歩、石七補ニ香花ノ之費、于レ時近衛龍山君偶ニ遷ニ于茲、聽ニ息女ノ之計、而詠ニ倭歌六首ニ追薦、其ノ歌伝フ于今一矣、開山中岳哲和尚、越後州人也、二代察庵寿和尚、上野人也、三代乘山宗和尚、四代桂岩仙和尚、共ニ移ニ于耕春院ニ、五代朔翁龍和尚、六代旨鉄宗和尚、共当地人也、七代的心伝和尚、八代崇淵伝和尚、二師共ニ当所人也、九代積秀雪和尚、十代石橋川和尚、又共当地人也、住僧十代ノ之中ニ開山師ノ之外有レ功ニ于寺者ノ旨鉄也、殿堂皆改メ、淵者唯造ニ祠堂耳、

白華山常源寺

常源寺ハ者、永祿六年和徳村ニ基レ之、開山祖師繼ニ法於ニ三目内村ヲ金龍寺ニ成ニリ末寺ト也、及ニテ金龍没ニ而終ニ失セリ其ノ抛ニ也、自レ是属ニ於耕春院ニ猶ヲ至レリ今ニ也、慶長年中、移ニ境ヲ弘前ニ、弥、加ニ于耕春門徒ノ之列ニ焉、○此ノ寺ヲ異説多シ、或ハ云ク、其ノ古ハ真言宗ニシテ也、而傍ニ扶ニ神道、主ニ熊野・稻荷ノ之社ト也、而後ニ改ニ宗ヲ曹洞、

或ハ云々、和徳讚岐者ノ為ニ姥妣ニ建フト又云々、太守為信公為ニ紀伊守守信公、建以附ニスト供養田一ヲ云々、雖ニモ是非難シト分ク、我レ粗折衷、其ノ始、真言宗ニシテ、而主神社者、不有レ拋焉、諸山咸置ニ守護神ヲ於境内ニ、此ノ寺ヲ獨リ以テ和徳ノ之稻荷ヲ、直為ニ鎮守ト、別ニ不立ニ一社也、故ニ其ノ古、稻荷ノ之社、有レツテ而為レ涼ニ、神慮奏ニス神樂、必侍ニ常源ノ之主而後ニ始ムト之、又毎年正月廿日、熊野ノ之社司家、請ニテ常源ノ主一、為レ之レカヲ奏ニス神樂一、其催過分ナリ、若昔時ニ非レズ受ル令ヲ於常源ノ者ノニ、則豈ニ如レクナラシヤ、此哉、又讚岐カ之建フト云云之者、非無ニ理也、此ノ寺固有ノ之田及ヒ旧址、共ニ在リ於和徳村讚岐之所レ領ズル、蓋シ是以テ云フカ也与、就レ中ニ為信公為ニ紀伊ノ守守信公ノ建焉者、信疑処レ半、我レ會テ聞ニ古老ノ説フ云、守信公代リテ舎兄、為則公ニ、發ニ向シテ于南部桜庭城、聿ニ不ニ振旅、而卒、因ツテ而為ニ其ノ追薦、為信公建ニ耕春院、為ニ其ノ婦人ノ營ニ卓昌寺ヲ云々、且貞昌者為レ婦人建之、常源者為レニ夫營、其為レ婦者、施租多、而為レ夫ノ者、施税、少、哉、或云々、為信公及レテ屠ニ讚岐カ之壘ニ、寺モ亦タ可ニ破却也、然レトモ、而公ハ也者仁勇兼備、其ノ破却者不レ及レハ云フニ之、固有之田不レ忍レ奪フニ之、伝イテ而到ニ于今ニ、此レ言似レ有レレ理也、合セ記シテ伝フト疑ニ云、開山中庵壺和尚、勢州人也、二代体岩道和尚、日向人也、三代陽山碩和尚、当地人也、四代鷲峯鷲和尚、五代仏山道和尚、六代広山沢和尚、七代瀆州岳和尚、共当地人也、八代門骨宗和尚、

寺改作也、移ニ于耕春院ニ、九代万州龍和尚、又移ニ于耕春院ニ、十代池鳳仙和尚、羽州人也、十一代真龍瑞和尚、当地人也、新ニ作ニ祠堂ヲ、十二代一透要和尚、武州人、改ニ本尊ヲ復ニ方丈ヲ、

大浦山海藏寺本長勝寺

海藏寺ハ者、当郡内曹洞一宗ノ之権輿者ノ乎、雖ニモ寺院多シト、而無シ先ナルワリ也、明応年中、肇ニ乎種里村ニ移ニ于堀越村、又換ニ於大浦坪貝一、慶長年中、又移シテ而止ニ于茲矣、蓋シ成ニレ長勝寺末山ト者ハ、開山江山石州花谷人ナリ、從リ壯年ノ之比、親ニ炙、於長勝開山菊仙禪師ニ、得ニタリ蘿蔔ノ禪ヲ、猶以テ董ニ海藏ノ之席ヲ、為ニニ信公ノ所ニ齒録一、而世出世共ニ不ニ若ニ徒一也、是以テ海藏先住ノ之未タレ入ニ伝法ノ之室ニ者、皆拔ニ出シテ其ノ牌一自成一開山祖ト、又タ成ニ長勝末寺ト也、盛信公卒去ノ之後、建ニ牌於長勝及海藏寺ニ、故ニ曾孫為信公、施ニ田若干畝一、石ニ、為ニ修造ノ之資ニ也、初開ノ之縁遷移之年不レ詳ニ于考ニ、非レズカ闕、耶、開山江山永和和尚、二代東岑春和尚、遠州人也、三代祖室龍和尚、常州人也、四代治庵悅和尚、越州人也、五代祖翁芸和尚、仙台人也、六代天室最和尚、羽州人也、七代真巖天和尚、生縁同レ前、八代物外逸和尚、仙台人也、九代月秀鶴和尚、南部人、寺ヲ改メ作レリ也、十代船叟泊和尚、移ニ于長勝寺ニ、十一代琥外全和尚、岩城人也、十二代孤峰秀和尚、当地人也、十三代寂照円和尚、豆州人、元禄十四年改ニ造ニ本尊釈迦脇士文殊普賢一也、

三嶽山清安寺長壽寺

清安寺ハ者、其古曰フ松源院ト、天正年中ニ所創也、原ニ其ヲ濫觴シ、長勝三世密田和尚隱居之庵也、密田終焉之後、村民議云ク、

庵ノ地乱レ不可廢、高僧ノ之所嘗テ、後チ必ズ有興ルコト乎、因而

使三在庵和尚ヲ主庵之事一、自是舉レ村婦スル古ト之、猶婦レガ市也、

其ノ境三嶽山之麓、赤石川ノ之上、老松一株之苞也、是以曰フ三嶽山

松源院ト乎、爰當三通讚住職ノ之時ニ、信牧公之婦人葉縱院殿物

故シ玉ヲ、通讚承ニ鼎命一、而成ニ葬主ト也、因レ茲ニ建ニ桂林院殿之

悲母心悅清安大姉ノ之廟ヲ於松源院ニ、施ニ供養田數百歩ヲ也、至ニ于

今ニ所ニ收納ス者三十三石三斗三升也、後改二名清安寺ト、開山密

田宥和尚、二代在庵存和尚、当地人也、三代琴南舜和尚、生所同前、

四代通讚達和尚、生縁同前、五代露叟滴和尚、相州人也、六代水巖滴

和尚、武州人也、七代唯道秀和尚、当地人也、

嶺横山梅林寺長壽寺

梅林寺者、云下其ノ祖建於湯口村ニ、慶長年中移中境ヲ於弘前ニ、於レ

是ニ盛岡源三郎成リ中興開基一、請ニ長勝八世格翁和尚一、為ニ開山第一一

祖ト、然レ而此寺會無固有ノ之常住物一也、不レ知何ヲ期ニ也、永

年ヲ哉、是以盛岡安女訴フ事ヲ於ニ太守信吉公ニ、公曰、盛岡ハ者岐ニ

於我ノ之先祖ノ之家ニ、而世忠于我ニ者一也、忠臣ノ之所為、我其レ

舍諸、則捨ニ田數百歩ヲ、石三、自レ是寺益興焉、開山格翁逸和尚、

二代道室達和尚、生国不詳、三代群山逸和尚、生縁不詳、四代元山突

和尚、羽州人也、五代根外道和尚、生国不詳、六代傑外祝和尚、

生縁松前、七代不歩歩和尚、当地人也、八代闍猷光和尚、常州人、

自ニ壯歲一遊学無レ倦、略通ニ文字ノ之学ニ、当山中ニ弘經講說者、蓋シ

盛レナルカ自レ此ノ僧一乎、九代桂堂長和尚、当地人也、改ニ本尊一造須彌

檀一、

万松山安盛寺長壽寺

安盛寺ハ者、挿ニ草ヲ於深浦村ニ、厥ノ后移ニ境ヲ於堀越村一、共ニ不レ詳ニ

其ノ年一也、慶長年中移ニ弘前一來レ也、雖ニ此ノ寺素一有ニ古蹟ノ之名一、

住僧皆ナ非ニ嗣法ノ之人ニ、所以世代ニ纔ニ不レ過ニ五六人一耳、中葉有ニ服

部長門ト云者、信牧公股肱之臣ナリ也、而モ於ニ此ノ寺ニ亦ニ金城湯池ナリ也、

曾テ視ニ寺ノ之不瞻、施私田一以テ補ニ庫下ノ之不足、於是一請ニ

耕春五世年室和尚一、為ニ開山初祖一也、及ニ長門没一、其ノ子左近致

仕出焉、自レ是寺日衰、頃日亦タ有ニ津輕ノ為節者一、屢ニ奉レ

訴レ長門之任ニ前、而勵ニ中節一、於後、太守信吉公ニ

為レ之レ請ニ承、供養田數百歩ヲ、附ニ于安盛寺一、然レ而其ノ田不

美、所ニ納者僅三不レ過ニ一二石一、是以炊爨之煙將絶者、

數、矣、且ツ此ノ寺ノ之什物ニ有ニ画像三幅一、其ノ一ハ者為信公ノ之像、

其ノ一ハ者信牧公ノ之像、共ニ長門ノ之所寄者乎、其ノ一ハ者信吉公ノ

之像、蓋シ為節之所置者也、開山年室寿和尚、二代中巖堂和尚、

三代格外逸和尚、共移于耕春院、四代来室撮和尚、当地人也、五代一
外心和尚、羽州人也、六代利岩貞和尚、生縁同前、七代白猛和尚、加
州人也、

龍負山亭德寺長勝寺

亭德寺(亭)者、亭祿二年、長勝二代松澗和尚、於(イ)行岳村五本松川原、之
中(ニ)初(メ)開(ク)之(ヲ)、本尊正觀音(ハ)者智証大師(ノ)之妙巧也、時(ハ)人祈(ニ)疾疫災
難(ヲ)、無(レ)不(レ)得(ル)感(應)也、于(レ)時(ニ)稱(ス)當郡(ノ)探題(ト)者、北畠源中納言
顯家卿(ノ)之末葉也、村民徒(ヲ)稱(シ)御所(ト)、不(レ)斥(ス)名(ト)也、蓋(シ)尊(レ)之(ヲ)
也、後竟(ツ)失(セ)實名(ヲ)也、此(ノ)人偏(ヒト)感(ニ)觀音(ノ)之靈異及(ヒ)松澗(ノ)之道風(ヲ)、
而終(イ)成(レ)檀越(ト)也、未(ダ)幾(カ)多(ク)矣、以(テ)弘治元年五月廿四日(ニ)逝去(ス)、
乃(チ)名(メ)曰(ク)龍負院(ト)亭德(ト)祐元大居士(ト)、蓋(シ)寺(ノ)之号本(ニ)于是(レ)者(ノ)乎、
且(ツ)亭德寺(ハ)者從(レ)古(ヘ)居(レ)長勝末山(ノ)之首位(ニ)也、是(レ)以(テ)及(レ)至(ル)於(レ)長勝
若(シ)空(ス)席(ヲ)久(キ)ニ、而其(ノ)間末山(ノ)之僧有(レ)示(シ)寂(シ)之(シ)變(シ)、則(チ)使(ス)亭德(ト)者(ノ)、
為(シ)拳火(コ)之師(ト)、又(タ)長勝住持交代(ノ)之時(キ)、間有(リ)統(ツク)法(ヲ)於(レ)亭德(ト)者(ノ)、
其(ノ)余(ハ)不(レ)足(ラ)志(ス)者(ノ)乎、開山松澗菊和尚、二代心庵旭和尚、三代天
室然和尚、常州人也、四代昌室隆和尚、五代雪潭翁和尚、尾州人也、
六代喜翁悅和尚、当地人也、七代天巖堯和尚、生縁同前、八代請翁益
和尚、当地人、仏殿・大門・庫裡、皆改(メ)作(ル)也、九代法雲酬和尚、
下野人也、十代山童丹和尚、当地人也、

金龍山盛雲院耕春院

盛雲院(ハ)者、元龜年中、於(ニ)乳井寺(ノ)内(ノ)之里(ニ)、乳井氏某甲(ト)者始(チ)而
建(ク)之(ヲ)、本寺(ハ)者三ツ目内金龍寺(ト)也、金龍湮没(シ)之後、属(シ)耕春院(ニ)、
而成(レ)其(ノ)派(ノ)之門首(ト)也、故(シ)耕春(ノ)之主若(シ)及(レ)有(ル)疾(ニ)病(ニ)事故(ト)、則(チ)便(シ)
盛雲(ヲ)代(シ)其(ノ)職(ト)、然(レ)トモ時(ノ)宜(ト)、則是(レ)亦(レ)不(レ)定(ス)也、
蓋(シ)金龍(ノ)喚(ル)山(ノ)者、弗(レ)忘(ル)其(ノ)本(ノ)者(ノ)ナラシ也、開山性山種和尚、生
国不(レ)詳(ナ)、二代身庵長和尚、生所不(レ)知(ル)、三代中庵宗和尚、常州人也、
四代喜庵悅和尚、生国不(レ)詳、五代立山鶴和尚、南部人也、六代格叟逸
和尚、越後州人也、七代融山祝和尚、当地人也、八代州外岳和尚、羽
州人也、九代大巖音和尚、当地人也、十代祖麟和尚、生縁同前、

頓川山寿昌院長勝寺

寿昌院(ハ)者、雖(モ)其(ノ)旧址(ニ)於(レ)賀田村頓川(ノ)之中(ニ)、未(ダ)知(ル)何(レ)年何(レ)
人(ト)之建立(ト)也、慶長二年、自(リ)頓川(ノ)移(ル)于(レ)新里村(ニ)、元和元年、
又(タ)自(リ)新里(ノ)移(ル)于(レ)弘前(ニ)也、至(リ)住僧閑遠(ト)、而募(シ)建(ク)仏殿暨(シ)庫裡(ト)、
勸(メ)請(フ)長勝十三代在州和尚(ト)、為(シ)開山第一祖(ト)也、○蓋(シ)此(ノ)寺(ノ)初
開(キ)以來(ノ)修行未熟(ク)之僧更(ニ)勤(ム)住職(ト)、閑遠(ト)却(シ)其(ノ)牌(ト)、新(ニ)立(ス)
開山(ト)者(ノ)乎、開山在州宅和尚、二代閑遠(ト)、尾州人也、三代月光
満和尚、越前人也、四代谷心元和尚、当地人也、五代苔岩英和尚、生
縁同前、

石龍山川龍院耕春院

川龍院(ハ)者、雖(モ)草(ノ)形(ト)於(レ)石川村(ニ)、未(ダ)曾(テ)著(ス)于(レ)世(ニ)也、寛永二年、

一村ノ之民一志ヲ寺ヲ改メ作り、使三耕春五世年室和尚ヲシテ為ニ開山初祖、慶長年中、換二境ヲ弘前ニ、初開ノ之年不レ詳ナラ也矣、開山年室寿和尚、二代難室易和尚、生国不詳、三代桂翁歟和尚、当地人也、四代涼月清和尚、常州人也、五代靈重苗和尚、下野人也、

別処山宝積院廣松寺

宝積院ハ者、元龜年中、別処玄蕃ト云者ノ中別処村ニ建レ之ヲ、村中有ニ別処森者、是レ其ノ旧址ナリ也、謂三柱礎亦存ニト于今ニ也、蓋シ玄蕃ハ者今ノ之坂本氏ノ之先祖ナリ也、慶長年中、移ニ于弘前ニ、就隣松寺ニ勤ニ室中ノ之事ヲ、開山祖ノ之縁不レ詳ナラ也、開山花応佐和尚、武州人也、二代枝応茂和尚、仙台人也、三代雪巖盛和尚、羽州人也、四代万松壑和尚、当地人也、五代伶室利和尚、常州人也、六代月觀察和尚、生縁同前、七代一空玄和尚、羽州人也、八代安叟道和尚、常州人也、九代埤道貞和尚、羽州人也、

貴峯山月峰院長壽寺

月峯院ハ者、其ノ旧跡余ニ於沖館堀越ノ之両村ノ之中ニ也、然レトモ而初開再興共ニ無知ニ其ノ年ヲ者ノ也、蓋シ所以ノ号ニル貴峯山ト者、本尊十一面觀音會テ堂ニ于沖館村貴峯山ノ之頂ニ矣、一朝野火蔓蕪ニ覃ニ于堂ニ也、風強不レ止、一時燼矣、于レ時其ノ像繫ノ傍ノ之樹ニ、儼然トシテ無レ恙、村民驚キ怪ミ先飯移ニ于月峯院ニ、俟ニ再興ノ之時マ、不レ果メ而終ニ成ニ此寺ノ之本尊ト也、自是改旧号ニ貴峯山月峯院ト也、慶長年中、

移ニ于弘前ニ、此ノ像有レテ時而向ニ沖館村ニ云、開山学翁文和尚、当地人也、二代久山長和尚、生縁不詳、三代然宗廓和尚、上州人也、四代融庵祝和尚、常州人也、五代南翁嶺和尚、生国同前、六代黄山鶴和尚、当地人也、七代公範猷和尚、生縁同前、

松種山正光寺本山

正光寺ハ者、文祿元年、猿賀村ニ創レハシム之ヲ、開山然宗ハ者、仙台黒石正法寺ノ之門徒ニシテ也、而モ月船和尚ノ之余裔也、以三旧址属ニ於東根ニ、慶長年中、移ニ于寺ヲ於耕春総門ノ之中ニ也、開山然宗超和尚、仙台人也、二代華翁巖和尚、雲州人也、三代久覺天和和尚、生縁不詳、四代春庵牛和尚、山城人也、五代玉堂金和尚、当地人也、六代繁室昌和尚、生縁同前、七代慶岩愾和尚、生縁同前、八代易門周和尚、生縁同前、

平福山滿藏寺耕春院

滿藏寺ハ者、藤先村護国寺ノ之古遺蹟也、蓋シ護国寺ハ者鎌倉副元帥平ノ時頼、法名最明寺、弘長年中所創也、略考ニ其ノ本文一、一寺ニシテ而三改宗マ、四換名者ノナリ也、草創ノ之昔シハ者号ニ手堂教院、常陸阿闍梨者居焉、然レトモ而殿堂尺及ニ類破、有無相半、是以時頼就ニ其ノ境ニ、而建ニ護国寺ヲ、改ニテ宗ヲ臨濟ニ、俾ニ大覚禪師ヲシテ為ニ開山祖、或ハ又曰フ靈台寺ト、古昔盛ナリシ日免ニ田舎・鼻輪・平賀三郡ノ之租稅一、充ニ於一山ノ之供及ビ修造ノ之費一焉、爾來世乱レ国忙、終ニ不レ偷ニ租ノ租ト也、自是寺ヲ益ク衰敗、今ハ則チ無レ地

卓^{スル}一^ニ鍾^ス也、於^レ是^ニ又^タ改^メ宗^ヲ曹洞^ニ、更^ニ名^ヲ滿藏寺^ト、成^レ耕春門徒^ト也、伝説^ス藤先村^ニ有^リ唐絲^一者、時頼公^ノ之妾^也、依^テ婦人^ノ之妬^ニ、弘長元年、遷^ニ于茲^ニ矣、愁苦^時移^リ、形容^枯悴[、]于^レ時有^ニ最明寺^ト回國^ノ之唱^ヘ而、曰^ク駕^已入^ニ于疆^ニ也、唐絲^謂其^ノ婢^ニ云^ク、我曾^テ為^ニ時頼^ト所^レ愛^セ、偏^ニ依^レ有^リ色^也、今^マ有^ニ何^ノ面目^一、而再^ヒ見^シヤト、此^ノ人^ニ哉、自^ラ懷^レ石^ヲ投^ス水^ニ、最明寺^不堪^ニ哭泣^一、因^テ而為^ニ之建^ニ護國寺^ヲ焉、既^ニ及^レ還^レ還^レ駕^ヲ、到^ル処^ニ隨^ニ一^ニ七日^ニ則^チ建^ニ一^ニ七山^ト、隨^ニ二^ニ七日^ニ則^チ立^ツ二^ニ七山^ヲ、其^ノ遺蹟^曰存^ニ于今^ニ也、還駕^漸達^ニ於鎌倉^一、於^レ是法物^供器^調以^テ寄^ス之、伝^テ而存^ス者^ノ大覺禪師^ノ之像、龍紋^ノ袈裟^一一^ノ肩、唐絲^所持^之謂^フ手箱^一者^ノ一^ノ器、唐ノ鏡一面^年由^尋也、其^ノ中^最可^惜者^ノ元弘二年^所賜^之繪^旨二^通、未^レ由^尋也、其^ノ中^最可^惜者^ノ元弘二年^所賜^之繪^旨二^通、同年八月廿五日^ニ所^レ受^ル之^ノ國宣^{一通}、弘安元年^所受^ル之^ノ田舎^{鼻輪}・平賀三郡^ノ之安堵^状一通、其^ノ外^連書[・]奉書[・]寄進^状、其^ノ數^{二十}余^通共^ニ失^レ之^也、相^伝者^ノ只^其ノ目錄^耳、○或^ハ云^ク我^屢讀^ム東鑑^一、未^三曾^テ見^ニ唐絲^ノ之^事、恐^ラク虚説^ナラン也、云^ク唐絲^ノ之^事者^閨閣^裏之^事也、而^非関^ニ天下^ノ之^事也、是以^テ不^レ載^乎、雖^モ曰^ク天下^ノ之^事、至^ツテハ其^ノ可^レ略^ス、則^チ畧^セ之^者乎、東鑑^獨不^レ言^ニ頼朝^公之^薨日^ヲ、近代^道春^ノ家譜^ニ畧^謂之^也、是^其ノ証^也、何^容疑^於此^ノ問^ニ哉、開山^寒江泉^和尚、生國^不詳、二代^然宗^廓和^尚、当地

人也、三代蓬室浦和尚、生縁同前、四代笑山闍和尚、生縁同前、五代玄庵嶺和尚、羽州人也、六代月庵瑞和尚、生縁同前、七代独岩祝、大和人也、八代寄外妙和尚、当所人也、右此^ノ數^代改^メテヨリ曹洞^ニ以來所^レ住^ス者^ノナリ也、自^レ是以前^ハ不^レ詳^ニ于考^ルニ、

石山正岳院隆松寺

正岳院^ハ者、天正年中^中床舞村^ニ基^レ之^ヲ、蓋^シ号^ス石神山^ト者、此^ノ寺^ヲ守護神^ノ之^謂也、其^ノ社素^在於^ニ床舞村^ニ、社中^別不^レ立^ニ神像^一只置^ニ一卷石^一、禰^禰無^シ懈^也、寺^ヲ在^リ其^ノ側^ニ、祭^テ以^テ為^ニ鎮守^ト、自^レ是^レ号^ス石神山^ト也、慶長年中、移^シテ入^リ弘前^一、成^レ隣^松寺^門葉^ト也、開山^庭叟^洞和尚、越後州人也、二代年叟寿和尚、当地人也、三代在庵存和尚、生縁同前、四代輝山榮和尚、生縁同前、五代鶴巖鶴和尚、生縁同前、六代肝心中和尚、常州人也、七代禪心瑞和尚、武州人也、

白鷹山天津院常樂寺

天津院^ハ者、為^ニ信濃守^政信公^法名^一天津先公^大禪^定門^ノ、天文年中^和德村^ニ建^ツ之^ヲ、因^ツテ而名^ニ天津院^ト、○想^此寺^天文中^ノ之^古跡^ニシテ而、大檀那^者我^ガ之^ノ太守^ノ之^先祖^也、然^レトモ而^テ寺^ヲ益^ク衰^微、不^レ堪^ニ使^ニ令^スス^ル一^ニ沙弥^一、思^フ一^身猶^多、故^ニ雖^トモ先公^ノ之^牌存^ニ于今^ニ、封^セ蛛^網、埋^ニ塵^埃、未^ダ曾^テ見^ニ一^朝之^猷香^花者^ノ、偏^ニ是^レ先公^ノ之^不幸^耶、抑^イ亦^タ此^ノ寺^ノ之^法運^ニ屯^一初九^ニ而^磐桓^者乎、雖^モ伝説^多ト、皆^ナ俚語^耳、開山^林山梁^和尚、当地人也、二代

賞岩源和尚、羽州人也、三代来庵意和尚、当地人也、四代秀翁鉄和尚、羽州人也、五代関秀堂和尚、生縁同前、六代然岩廓和尚、生縁同前、

八重山長徳寺備松寺末寺

長徳寺ハ者、亭イ禄年中、権ケ興ミ于高杉村ニ焉、雖モ開山及ヒ二代本モ有リニト善知識ノ名一、其徳有レ限リ乎、寺ノ不レ知コト興ヲ久矣、故ニ依ニテ世事法儀相イ碍ト多シ、而頃日ロ移シ開山真顛ノ之牌ハイヲ於隣松寺ニ、弥イヨクナセリ派ノ之本寺ト也、慶長年中、移シム境ワ此ノ処ニ、或ハ云ク、高杉氏某甲ソノシカント云者ノ建レト之ヲ不レ知レ抛ト也、開山関翁也和尚、和州人也、二代喜山悦和尚、当地人也、三代玄室頓和尚、生縁同前、四代空外身和尚、武州人也、五代関嶺禪和尚、能州人也、

種里山鳳松院備松寺末寺

鳳松院ハ者、開基ノ之縁不レ詳ニ于考ルニ、從レリ古ハ在ニ種里村ニ、而慶長年中移シ弘前ニ来ル、今ニ其ノ旧地ハ縮レ庵ヲ置テ僧ヲ、俗呼フ曰フ鳳松院ヲ田屋寺トト者ノ是レナリ也、開山金庵喜和尚、生縁不詳、二代悦堂喜和尚、常州人也、三代看山尊和尚、南部人也、四代繁室龍和尚、羽州人也、五代国外芸和尚、南部人也、六代清翁鶴和尚、当地人也、七代一眼堂和尚、生所同前、八代久岩良和尚、羽州人也、九代家南伝和尚、南部人也、十代円州、当地人也、

龍沢山嶺松院備松寺末寺

嶺松院ハ者、天正十年初開ノ之寺ヲ也、住僧皆非ニ伝法ノ之人ニ也、故ニ

勸カンシヤフンテ 耕春四世龍外ノ鑑ヲ、始メテ立ツツ開山祖ト、旧址在ニ藤苗村ニ、或ハ云クク藤苗氏某甲ソレシカトコレガキ為ニ之開基ニ不レ委ニ于考ルニ、開山龍外鑑和尚、二代広室宅和尚、当地人也、三代一山朔和尚、羽州人也、四代量山応和尚、

信州人、在住ノ之中寺ヲ皆ナ改ム焉、此ノ僧退院ノ之後、深ク入ニ遠村ニ而モ独リ居ラレリ焉、或夜遭テ賊ニ身着異ニス処ヲ、于レ古于レ今無レシ徳而強シ好シ独居ヲ者却テ成ニ禍ノ之因ト、又タ為ニ不善ノ之媒ト、可レレハ不レ慎ニ乎、五代薰智和尚、相州人也、

薬王山松伝寺備松寺末寺

松伝寺ハ者、旧基在ニ於森山村ニ、曾テテ龍岩ト云者ノ得ニ薬師如来ノ之像一尊ヲ而縛レ庵ヲ供養ス、仏徳難レ覆フ、人皆ナ成レ踐ト、自リ爾シ転レ庵ヲ為レス寺ト、龍岩有ニ謙讓ノ之徳一、不三敢自ラ成ニナラ開山祖ト、請シテ耕春八世中巖和尚ヲ為ニ初祖ト、其ノ身居レリ于第二位ニ也、蓋シ山ヲ曰フ薬王ト其ノ濫觴ヲ、依ニ本尊ノ之徳ニ也、開山中巖堂和尚、二代龍岩朔和尚、当地人也、三代聖翁祝和尚、当地人、寺改造焉、四代日山舜和尚、生所同前、五代豊岩猷和尚、武州人也、六代寂道蓼和尚、松前人也、七代声外音和尚、当地人也、八代芳全和尚、当地人也、

新屋山永泉寺備松寺末寺

永泉寺ハ者、文禄二年、新屋村ノ之民結ンテ一草庵ヲ、居ニ一老僧ヲ、相イ約シテ云ク、勤行不レ怠ト、則改メテ庵ヲ為レセント寺ト、於レ是ニ老僧雖レモ餽ニ口ヲ於四方ニ、読経無シ空日ニ也、民不レ食レ言、竟ニ為レ寺也、因フテ統ニ法ヲ

於耕春先住三成三末寺ト也、老僧ハ者則チ中山和尚ナリ也、開山中山種和尚、

金華山泉光院藤先寺

羽州人也、二代玄室奧和尚、信州人也、三代來室本和尚、当地人也、

泉光院ハ者、藤先寺ニ世察庵相ニ攸トコロ、大光寺カコ籠田ニ、慶長十年ニ建レ之ヲ、

四代鉄庵門和尚、常州人也、五代喜山悦和尚、当地人也、六代翁山越

同十七年移シ弘一來ル、開基ノ之縁都テ不レ詳、開山察庵寿和尚、二代乘

和尚、仙台人也、七代江山村和尚、加州人也、八代然庵廓和尚、生国

山宗和尚、三代梅英芳和尚、羽州人也、四代火岩它和尚、生縁同前、

同前、九代祖禪和尚、当地人也、

五代白翁龍和尚、当地人也、六代千岩樹和尚、常州人也、七代一葉舟

新岡山高德院藤松寺

和尚、相州人也、八代法川林和尚、九代的翁端和尚、共当所之産、

高德院ハ者、新岡但馬ト云フ者、天正年中於ニイテ新岡村ニ建レ之ヲ、開山中岳

梅峯山惠林寺常護寺

統ニ法ヲ於隣松先住ニ為ニ末寺ト也、及シテ新岡一族亡ニ、其ノ家ヲ、而寺ヲ

惠林寺ハ者、永祿年中、昉ニ於佐比内村ニ也、開山祖師ハ者常源二世体

尽コト、衰敗、慶長年中、移シテ而在リ于茲ニ矣ハ、開山中岳玄和尚、当所

岩和尚ナリ也、慶長年中、移セリ境ヲ於常源門内ニ也、開山体岩道和尚、二

人也、二代性翁光和尚、羽州人也、三代一點譽和尚、生国不詳、四代

代奇山也和尚、三代瀛室和尚、共当所人也、四代広室沢和尚、関東人

国岑佐和尚、当地人也、六代德翁智、南部人也、

也、五代蘭叟秀和尚、生縁不詳、六代骨庵徹和尚、武州人也、七代天

神平山蘭庭院蘭松寺

眼鉏和尚、羽州人也、八代特心英和尚、当地人也、九代刀笑单和尚、

蘭庭院ハ者、兼平中書ト云フ者ノ為ニ亡婦一、元和年中兼平村ニ建レ之ヲ、施ニ

下野人、寺改メ作レ也、十代氣外志和尚、当地人也、

私田一、以テ追薦ゼン、法名曰フ蘭庭薰公大姉ト、因而名ニ蘭庭院一、及シテ

金沢山照源寺辨尊院

其ノ家徹一、寺亦モ隨タ衰フ、見者ノ嗟歎ニ云ク、蘭ノ之レ作ヲ庭ニ枯レ而

照源寺ハ者、元和五年所ナリ創也、其ノ旧地、或ハ謂イ在ニ堀越村ニ、或ハ亦タ

又タ榮フ我レ見ルニ此ノ寺今マ將ニ枯シト矣ハ、想フ夫有レ時乎、榮フルニ与胡ヲ為レ

謂レ在ニ温湯村ニ、本尊薬師如来、世有ニ靈仏ノ之名一、而寺ヲ素モ貧シ

其レ遲ク也、開山月寒鶴和尚、二代心運用和尚、生国不詳、三代覚底

窮ニシテ、而難レ畜ニ一僕一也、慶長年中、移シテ而在ニ於長勝寺ノ之側カ

哲和尚、羽州人也、四代意庵察和尚、当地人也、五代白外龍和尚、生

隣松寺ノ之西ニ、元祿六年依リ營ニ、久祥院殿ノ之廟ヲ於其ノ処ニ、又タ

処不詳、六代大庵益和尚、当地人也、七代松山鶴和尚、生所同前、仏

移シテ而置ニ於今ノ之処ニ、草創ノ之縁不ニ尋ニ矣ハ、開山梅月香和尚、

殿改メ造ル、八代貴峯秀和尚、羽州人、改ニ本尊一、寺ヲ尽ク加シ修理ニ焉、

生所不詳、二代梵昌悦和尚、羽州人也、三代東廓北和尚、仙台人也、

四代格室和尚、相馬人也、五代南針和尚、当地人也、六代天応察和尚、生縁同前、七代嶺室良和尚、羽州人也、八代智円和尚、当所人也、

黒長山福寿院備後末寺

福聚院者、元和三年肇ハシム於宮館村、請隣松先住喜山和尚、為開山祖也、慶長年中、移柱礎於弘前也矣、開山喜山悦和尚、二代斧室鋤和尚、当地人也、三代晚山輝和尚、生縁同前、四代存志、常州人也、

金沢山全昌寺宇都宮末寺

全昌寺者、亨徳四世昌室隱居之菴也、帰寂ゴヤク之後、不コボツ忍コボツ毀コボツ而留メテ在リ于今、依ヨリ檀ノ縁ノ之薄、傾カ頽レ傷レ、目ヲ而無レシ力ヲ扶キ起ル也、嗚呼、開山昌室隆初年代不誠故全昌之分明也、二代請翁益和尚、三代且山、共生縁当地人也、四代風山波、生縁同前、五代喜徹悦、下総人也、六代良伝、奥州会津人也、

赤倉山宝泉院備後末寺

赤倉山宝泉院者、在ニッテ於鬼沢村、而不イ著シ、于世ニ矣、開山某甲、曾テ嘗メ大源ノ之滴、窺フ蟠龍ノ之窟者ノ也、所ニ以ハ其ノ名クル宝泉院、則テ寺ノ之背有山矣、曰フ石岩木焉、山ノ之頂有洞矣、曰フ赤倉焉、赤倉之中ニ有鬼、恒ツ栖ス不レ斃、問ハ閻ノ、不レ惱ハ行旅ヲ、唯ニ因ツテ人ノ之正邪ニ、或ハ護ル或ハ懲ル、于レ時ニ有ニ農夫一、載ハ南畝ニ、一鬼忽チ來リ、耦シ而耕ス、農夫始メハ而驚キ中ニ而怪シ終リニハ而馴ク云ク、此レ処ニ乏ク用水ニ、

欲スレニ集ム溝ノ一、石ノ疊ニ山ノ嶮ク未ニ如ク之何トモスルコト而已矣、一鬼顧ミテ

云ク、待マ我レ添レ力ヲ、言ハイハ不レ見ル、果シテ從フ其ノ翌日、流水涓涓、隨ニ高低曲直ニ來ル、民ミ爭ヒ引キ灌ル、數千頃ニ而猶有余リ矣、其ノ水雖トモ早

魃ノ之年ト、雖ニ霖雨ノ之歲ト、無レ減ル、無レ增ル、溝ノ亦ク不レ蹙ル、不レ崩ル、

是以テ民ヲ迄ニ于今無レ費ル、請イ雨ヲ祈リ晴ラ淤レ泥ヲ疏シ鑿ス之勞也、因ツテ而以為レ、是レ我レ之宝泉一鬼ノ之賜、不レ可レ忘ル者ナリ也、故ニ名ク其ノ村ニ曰フ鬼沢也、亦タ名ク其ノ寺ニ曰フ赤倉山宝泉院也、我曾テ讀ムニ蘓公ガ之喜

雨亭ノ記ヲ云ク、周公ノ得レ禾ヲ、以テ名ク其ノ書ニ、漢武ハ得レ鼎ヲ、以テ名ク其ノ年ニ、叔孫勝レ敵ニ、以テ名ク其ノ子ニ、我ガ之農夫得一鬼之賜、以テ名ク其ノ村ニ、又タ名ク其ノ寺ニ、於乎農夫野人ノ之智有レ似レルコト、聖賢ノ者ニ乎、

寺ノ助ニ于彼一移于此、共ニ不レ記ス其ノ年ヲ、知ル者ノ証レ之、○予云ク、

繫曰フ鬼者ノ、我レ甚ク怪シ之、見レバ其ノ出シ水樓洞ニ則チ小角貴所ノ之類也乎、伝者云ク、上古ニモ亦タ有レ鬼出ル焉、古記ノ所レ載ス省シ矣、

今マ繫曰フ鬼者ノ、高嶽ノ靈神變形ヲ、依リ物ニ護シ民ヲ救フ世ヲ者ノナリ也、

何シンニ其レ怪マ乎、開山月寒鶴和尚、二代傑山英和尚、武州人也、三代

晚関本和尚、四代善山積和尚、共当地人也、

桜庭山陽光院備後末寺記

桜庭山陽光院者、其昔ニ在ツテ桜庭村一而漸ニ成レリ寺ト也、所ニ以ハ其ノ資トトテ始メ者、我レ畧聞ケリ之ヲ、開山喜山悦和尚、卓ニ庵ヲ於レ桜庭ノ之辺ニ、

名関利鎖、都テ無レ于、閻然送レ居諸也、其ノ所ノ之民、便ニ

山谷之深^キニ、不^ラ織^ス不^ラ耕^ス、唯^ニ以^テ殺^ス戮^ス一^ニ為^ル業^耳、至^レテハ遭^フ至^ニ寒^ニ、則^レ剥^ク所^レノ殺^ス獸^ノ之皮^ヲ、縫^ヒ綴^ヒ成^ル衣^ト、服^キテ之^ノ無^シ數^ト、或^ハ嗽^レ血^シ肉^ニ、恬^シ然^ト無^シ耻^ルコト、喜^シ山^ノ啓^レレ^ミ之^ヲ、時^ニ説^ク二^ニ仏^ノ法^ノ刃^ノ之^事、如^シ以^テ水^ヲ投^レ石^ニ也、而^シ声^ニ入^ルカ毛^ノ吼^ク歟、間^ニ有^マ発^ス殊^ノ勝^ノ之念^一者^ノ、贈^ル薪^キ寄^セ薬^ヲ、締^ム師^ノ檀^ノ之約^一者^ノ多^ク矣、自^レ是^レ庵^日ニ榮^ヘテ而^シ不^レ忙^レ、養^フ二^ニ數^ノ口^一也、於^レ是^ニ乎、喜^シ山^ノ就^イテ隣^ニ松^ノ三^ノ月^ノ寒^ノ和^ノ尚^ニ求^メテ、号^フ一^ニ乞^ニ山^ノ号^ヲ、以^テ加^フ二^ニ寺^ノ院^一之^列焉、慶^長年^中、移^シ二^ニ弘^ノ前^一来^ル、到^ルニマテ于^今有^二衣^ハ皮^カ来^者、則^チ五^尺童^子指^之、曰^フ二^ニ陽^ノ光^ノ檀^ノ那^ト、無^シ一^ト而^シ差^{コト}也、雖^トモ信^施ノ之^重、不^レ可^レ依^ル人^ニ、而^シ受^ク殺^戮之^余分^一、可^二恐^一而^シ猶^モ懼^レ一^者乎、嗚^呼、開^山喜^山悦^和尚[、]二^代輝^陽悦^和尚[、]撰^州人^也、三^代麟^藏沢^和尚[、]生^縁不^詳、四^代峯^山達^和尚[、]羽^州人^也、五^代食^典悦^和尚[、]六^代樹^山柏^和尚[、]共^当地^人也、七^代香^巖積^和尚[、]羽^州人^也、

青森山常光寺記長松寺

青森山常光寺者、若州之僧祖外天芸者、始茲建之、所以其^ノ由^ヲ起^ル者、青森之置^レ処^ニ、枕^{ヨリ}山^ニ沿^レ海^ニ広^シテ而^シ且^ク平^{ナリ}、居民^リ二^ニ山^ノ海^ノ之^邇一[、]或^ハ漁^ル、或^ハ樵^ル衣^食無^シ乏^シ、至^シ若^ク、遠^商近^売、寄^セ二^ニ舟^ヲ於^此ノ津^ニ、有^マ無^シ交^易シ^テ自^ラ利^シ他^ヲ、故^ニ日^々ニ榮^ハ、日^々ニ榮^ヘキ、渠^渠民^屋、勞^シ二^ニ千^ノ有^余指^一而^シ數^ヲ焉、其^ノ中^ニ以^テ二^ニ神^ノ社^ノ仏^ノ閣^ノ之^鮮一[、]民^皆ナ^レ為^ス歎^ト矣、於^レ是^ニ乎、承^応二^ニ年^ノ之^春、拳^レ村^ヲ傳^フ二^ニ事^ヲ於^長勝

十四世聖眼禪師、禪師伝フ之ヲ執事、執事議決シテ曲^クニ訴^フ、太守^ニ、太守^ニ、太^守ノ曰^ク、法^ノ之^興焉、我^ガ土^ノ吉^兆、我^レ豈^レ惜^ヤ哉、則^チ立^テ施^セリ一^坐具^ノ之^地也、禪師^以為^ス、凡^ソ建立^ハ者^非二^ニ小^ノ根^ノ劣^ノ氣^ノ之^所可^レ堪^也、自^レ非^レ芸^ニ則^チ誰^レ幹^ニ其^ノ事[、]因^ツテ而^シ命^ス、芸^自是^レ從^ニ事^於是[、]募^リ縁^聚財^ヲ、寺^ヲ既^ニ成^リ矣、其^ノ為^レ境^也、善^ウ知^カ鳥^ノ之^側、惡^ヤス、知^カ鳥^ノ之^辺、幽^邃深^密ノ之^地也、戸^牖纔^開、則^チ吞^ミ海^含レ^ム山[、]鐘^鼓時^ニ考^ウテ^ハ、則^チ起^テ農^ヲ發^ス舟^ヲ、于^レ朝^テ暮^參詣^満堂^ニ、于^レ囊^子于^レ囊^施財^溢置[、]于^レ時^芸請^ニ聖^眼禪^師、為^ニ開^山祖^師、以^テ二^ニ義^ノ喚^和尚[、]為^ニ二^ニ祖^ト、其^ノ身^居二^ニ第^三位^一也、或^ハ人^ノ云^ク、芸^ガ於^レ此^ノ寺^ニ其^ノ功^不レ^可レ^在於^禹ノ之^下也、而^シ取^ニ位^一於^第三^位者^ノ何^居、夫^レ推^シ二^ニ好^ノ事^ヲ於^他一[、]向^テ惡^ノ事^ヲ於^己一[、]為^レ僧^者ノ之^常乎、僅^モ有^マ常^者ノハ、必^ズ容^レ有^二德^光一[、]其^ノ名^ニ之^常光^ト、名^実相^イ副^者ノナ^リ也、後^ノ之^居焉^者、可^レ不^レ慎^マ乎、因^ツテ為^スレ^記ト、開^山聖^眼祝^和尚[、]二^代義^喚礼^和尚[、]生^国不^詳、三^代祖^外芸^和尚[、]若^州人^也、四^代法^潭芸^和尚[、]当^地人[、]新^作二^ニ祠^堂、又^タ請^ニ大^般若^六百^卷、作^リ二^ニ堂^ヲ以^テ納^ム焉、

龍広山高沢寺記耕春院

鱈^沢ノ為^レレ^攸也、北^海ノ要^津、此^ノ土^ノ豊^郷、東^里南^郷、寄^セ二^ニ舟^ヲ於^此ノ津^ニ、以^テ有^マ易^レ無^シ、以^テ無^マ易^フ有^ニ、故^ニ此^ノ郷^ノ之^民、得^テ活^カ於^レ不^レ知^ラ人^ニ、富^ム潤^シ、其^ノ家^ノ無^シ敢^テ羨^レ他^也、爰^ニ有^レ寺^矣、曰^フ二^ニ高^沢寺^ト、以^レ禪^為レ^レ宗[、]以^テ二^ニ商^家ヲ^為二^ニ檀^越一^ト、以^テ二^ニ耕^春ヲ^為二^ニ本^寺一^ト、以^テ二^ニ全^室ヲ^為二^ニ第^一

祖一ト、而シテ後三元和元年寺ヲ始メテ成ルル矣、其ノ境ヤ也、居レ高キニノミヒキ、ニセキニセツスヒロキヲモ、狭接レ広、百自在、千自由、二不善、其境狹隘崇崇客衆、二不善、三不能、此處民常事殺能殺之、一不能、魚肉良氣遂風入寺、不能禦、三不能、皆此寺ノ之固有、而他ノ之不有者ノナリ也、

後ノ之主此ノ席者、移サバ境於広地ニ、則向之所謂ニ不善三不能者、都如クナラシカク昨夢ノ也乎、因以テ為レ記ト、開山全室心和尚、当地人也、二代喜翁悅和尚、生縁同前、三代峯山雄和尚、生縁同前、殿堂皆改造焉、故称中興、四代竹堂磨和尚、当地人也、五代経山説和尚、六代源流和尚、共生縁同前、

梶木山龍淵寺梅林寺

梶木村龍淵寺ハ者、梅林八世不歩和尚得テ於梶木村ニ、而欲ス建ニ僧房、于レ時道ノ川市左衛門ト云者、勳力ヲ募建、然レトモ而称ニ檀越者ノ才、五六十家耳、爾来、遠村近里、乗レシテ便リニ来就者、殆乎及ニ四五百家ニ也、自是寺ヲ益ク興ル焉、間又節山ト云者、改メ仏殿、更ニ本尊、且、法物供器ノ之不足者、尽ク求レ之ヲ、比ニスレバ今ヲ於古ニ、則玉石ノ之間、而已矣、蓋シ初開ハ者、慶安二年己丑ノ春ナリ也、開山不歩歩和尚、二代速道和尚、武州人也、三代節山貞和尚、越前州人也、四代智外存和尚、当地人也、

大伊山長円寺長松寺

飯積村長円寺ハ者、不知レ何レ年ニ也、近年頓了ト云者、借ニ檀縁ヲ而殿堂皆改造也、而シテ後ニ以テ長勝十四世聖眼和尚ヲ、為ニナス開

山第一祖一ト也、頓了ガ之功、又偉哉、開山聖眼祝和尚、二代頓了巖和尚、羽州人也、三代円翁廓和尚、当地人也、四代柳峯和尚、生縁同前、

金木山雲祥寺長松寺

金木村雲祥寺者、正保二年ニ長老吞益ト云者始テ而建之ヲ、自爾檀家浸、帰伏シテ、終ニ成リテ法幢ノ之地ト也、因ツテ請ニ長勝先住聖眼和尚ヲ、為ニ開山祖一也、○蓋シ吞益脱履寺職ニ、安シ身ヲ於世外ニ、是以テ不レ加ニ住列ニ者乎、開山聖眼祝和尚、二代独外宿和尚、羽州人也、三代独室和尚、生縁同前、四代体翁全和尚、生縁同前、

龍沢山正法院長勝寺

蓬田村正法院ハ者、慶長十八年所レ創ニスル也、其ノ境曾テ在田沢村ニ、而檀家ハ者、都テ有ニ蓬田村ニ焉、其ノ間道里遙カニ隔タリ、艱ニ往還ニ也、因ツテ議得テ蓬田ノ之中不毛之地ヲ於、公ニ、而移セリ之也、于レ時寛文二年春ル三月ニ也、開山聖眼祝和尚、也、勸諭アリ、二代吞益、生国不レ詳ナリ、三代尊益、羽州人也、四代龍泉、南部人也、(付)享保十二丁未二月八日、長勝寺香準依願、全龍寺旧号附属被、仰付、委細同二月也、留意、

荒川山宗禅寺長勝寺

荒川村宗禅寺者、慶長年中建レ之ヲ、依ニ檀家ノ之鮮ニ、中絶シテ而難レ興、属日闕堯ト云者、以ニ衣資ノ之余リヲ、荒廢忽テ、於レ是又ニ以テ長勝善巖

和尚ワウ、為ナラ勸請開山ト、其ノ功不レ少ナカラ矣、開山善巖積和尚、二代全
應義和尚、当地人也、三代関堯鉄、生縁同前、四代龍円、羽州人也、
五代達禪、当地人也、

東方山東福寺常陸寺

小湊村東福寺ミナト者、常源三世陽山和尚、文祿年中ニ建ケ之マ、開基ノ之縁、
都テ不レ詳ナ也、開山陽山碩和尚、二代喜雲悅和尚、南部人也、三代融
山宿和尚、仙台人也、四代天山堯、生縁同前、

深浦山宝泉寺常陸寺

深浦村宝泉寺ハ者、有ニ古跡ノ之名ニ、曾遭ニ火災ニ成ニス烏ヲ有ト矣、何レ、
時又又ク崛起シ、漸チ復シ其ノ本ニ也、初開ノ之年再興ノ之時、不レ委ニ于
尋ニ矣、開山体岩道和尚、二代司悅二和尚、三代香室芳和尚、共生縁
不詳、四代明翁、当地人也、五代得岩道、羽州人也、六代独外白、生
縁同前、

黒梵山保福寺備前寺

黒石サト邑保福寺ハ者、慶安元年初開ノ之寺ナリ也、蓋シ黒石者、雖ト自レ古
繁榮ノ之地ニシテ、而諸宗皆有レト寺、独リ欠ク曹洞ノ一宗ヲ、故ニ有レ心ニ于レ禅法ニ
者、議シ以テ建テ之マ、為ニ隣松寺ノ之末山ト也、開山月寒鶴和尚開山、二
代日巖朔和尚、当地人也、三代氣翁英和尚、生縁同前、新ニ立ニ仏殿ヲ、
四代骨寒徹和尚、生縁同前、新ニ立ニ三庫裡ヲ、五代通峰貫、生所同前、
六代徳岸三和尚、生縁同前、

太平山記

城ノ之坤ニ、有レ丘矣、丘ノ之中ニ有レ寺矣、其ノ数三十三院ナリ也、独リ長
勝禪寺ハ者、一丘ノ肇キ也、而耕春次ケレリ之レニ、其ノ余ノ寺院、両寺山
門ノ之前、分ニ左右ニ序ニ前後ヲ、櫛シ比シ基ヲ布ク、門門相イ対シ、擔擔闕
角ス、想フニ表スル兜率内外ノ之院者ノ乎、其ノ為レ境也、非シテ山ニ而如レ山ノ、
匪シテ市ニ亦レ近シ市ニ、古杉ヲ挟レ、路ヲ列ナリ、老松ヲ開レテ寺ヲ秀ツ、音磬ノ木魚、
雜然ト遙ニ聞ル者ノハ、朝課夜誦、每ニ不レ懈也、香煙灯光ニ隱然ト、
見ル者ノハ、祖參ノ仏詣ノ暫ク不レナリ絶ヘ也、故ニ雖トモ寺ヲ旧ニ、而扞シテ塵リ不レ
留レ跡ヲ、雖トモ樹蔭ノ、而踏シ尽シ草ヲ不レ潰レ茂、如レ是ノ靈境、雖トモ扶桑
闕シト、掘シ指ヲ可レ数ツ乎、我レ所ニ以其ノ為ニ靈境一者、粗知レ之也、
寛文七年、新ニ造ニ先住僧ノ無縫塔ヲ也、其ノ夜有レ鳥、集ニ古杉ノ之枝ニ、
唱フ仏法僧ト、其ノ音微妙ニシテ、人皆ナ傾レ聞マ、又タ同十二年、今ノ太守
欲シ改ニ作ラト、曾祖母ノ之廟ヲ、而及レレト毀ニ其ノ旧廟ヲ、靈野ノ之數莖、挺然トシテ
出ツ焉、如レ斯ノ異禽靈草ノ出生ノ地、豈ニ謂ニ之ノ凡境ト哉、爰ニ居ニ爰ニ處、
爰ニ愛ニ此ノ境者ノ徒ニ見テ其ノ境ノ之勝ト、而不レ察ニ其ノ德ノ之勝ト、
則百年ノ之後千歲ノ之下、誰レ稱ニ之ノ地靈ニ人傑ト耶、居ル者思レ之、

兼平山居伝

禪師名ハ本察、不レ知レ何ノ許ト人ト也、少シ時於ニ関東ニ、専ラ窮ニ道学ヲ、
雖トモ當時争レ名者ノ切レ、齒ヲ、而不レ可レ当ニ其ノ鋒ニ也、或ル夜感ニ護法
神ノ之託ヲ、頓ニ謝ニ名利ノ之念ニ、欲シ終ニ生ヲ於レ一廬ニ、而直ニ到ニ撰ニ、

重^{ウツモ}レテ 乎^ニ民^ニ居^ル焉[、] 太守信牧公、偶^ク在大坂^ニ、微行^シテ見^ル之[、]形容
不^レ凡^ナラ、言語有^リ味[、]因^テ而^テ誘^フ云^{ク、}我^カカ之所^レ領^スル土^ノ浜[、]雪
降^ル甚^シ、矣[、]然^{レトモ}弗^ズ之^ニ薪^炭、^{トモシ}カ^ラ 処^処有^ニ温^泉、^ニ猶^有リ便^レ禦^ク
寒^ヲ也、師何^シ惜^ム一^ニ往^哉、察許諾^シ云^{ク、}慣聞^ノ之地[、]素^モ非^ズ我^カ
願^ニ、君先^ツ往^矣、我^レ逐^フヲ^云其^ノ塵[、]命^スル勸^ニ駕^輿、^ニ而不^レ就^焉、
徒行^シテ到^リ弘前^ニ、脱^シテ鞋[、]市^ノ郵[、]信宿悠^然、于^レ時長勝空^ス席^{ヲ、}
太守ノ意有^レ令^ムル^ニ繼^ツカ^ラ之^{ヲ、}察^レ不^レ肯^{也、} 太守亦^タ不^レ能^レ強^ルコト、
因^テ而^テ爲^スニ企^テ庵^ヲ於^リ黒石^{ニ、}弥^レ月^不成^{也、}察往^テ見^ル之[、]其^ノ規模^広
大^ナリ、不^レ及^ニ再^顧ス^ルニ、^ニ転^シテ路^ヲ於^リ桜庭^{ニ、}相^ミテ山^ノ之^ノ翠^微有^レ水^処、^一就^レイ^テ
樹^ニ居^ル焉、^ニ僅^ニ容^レ膝^許也、^ニ而^テ後^ニ移^ニ金^平ニ、^ニ前後^{左右}皆^山ニ^シテ也、
而^如レ闌^レ屏^{也、}卓^庵其^ノ中^{ニ、}子影相^吊、^ニ若^シ有^下レバ^{男女}贈^米及^ヒ
菜^者上[、]則^男也、^ニ樊^内ニ^シテ而^受之[、]女^{也、}樊^外ニ^シテ而^受之[、]只^得
一^日之^分一[、]余^皆還^之、^ニ將^ニ終^ニ焉^{日、}告^ニ土^民ニ^云ク、^ニ死^後必^勿レシ
用^ルコト棺^槨、^ニ直^ニ薪^ニ我^カ庵^火葬^{ヨト、}言^イ已^閉目^{ヲ、}民^如ニ^シテ其^ノ教^ヲ矣、
収^ニ骨^盤灰^{一、}塔^ニ其^ノ上^{ニ也、}傍^ニ有^甘棠^一株[、]察^カ之^平日^手自^{カラ}所^レ
裁^{ル、}無^レ剪^{コト}無^シテ^拜ヲ^ルコト、^ニ蔽^蒂于^今ニ、^ニ由^レ此^レ觀^レバ^之察^{也、}法^中
召^公也^者乎[、]不^レ然^然則^使民^思之^何シ^然如^レ此^ヤ耶[、]年
月日時都^テ失^ス于^口碑^{ニ、}書^ニ其^ノ所^聞ケル[、]以^テ伝^フ于^後ニ、^ニ古^ノ之^貧者[、]
身^窮而^道不^レ窮^{セ、}今^ノ之^貧者[、]身^窮則^道亦^ク窮^{ス、}察^カ乎[、]処^ニ
古^ノ之^貧者[、]而^道全^ク不^レ窮^者ノ^ナリ也[、]其^ノ謂^ニ身^窮亦^タ有^レ心^口、^ニ而^固

窮^スル者^ノカ^乎、^ト与^ニ路^傍無^告ノ^威威^ノ之^貧、^ニ豈^レ可^ニ同^レ語^ル哉[、]今日
如^レ子^偶、^ト拾^ニ浮^雲之^富於^利門^名蹟^{ニ、}得^喪焦^思者[、]若^シ僅^モ以^テ
此^ノ人^一爲^ニ清^涼散^{ト、}則^其ノ病^立ト^{コロ}ニ^有差^イユ^ルコト^{乎、}胡^シ其^レ遲^也哉[、]
梅田村^ノ之^庵者[、]延宝四年、滿藏寺^先住^建レ^之、^ニ長^老鏡^水、^主ル庵^ノ事^{也、}
小泊村^ノ之^草菴^{ハ、}從^ニ勝^岳院^一建^レツ^之、^ニ蓋^シ明^曆年^中ナ^リ也、
十腰内村、弥陀堂^并草菴^{者、}寛文十一年、勝岳院^先住^建レ^之、^ニ蓋^シ
弥陀堂^{者、}道心^西入^ト云^{モノ}者^造レ^リ也、
中野目村^ノ之^庵者[、]寛文六年、万外^ト云^者建^レ之[、]清安寺^ノ末^庵也、
松源菴^{者、}承応二年、赤石村^締之[、]菴地^者清安寺^寺領^ノ之内^ナリ、^ニ庵^モ
亦^タ清安寺^末庵^{也、}法雷山^慈雲院^{者、}本^ハ在^リニ^浅瀬^石村^{ニ、}長勝寺^末
院^{也、}慶長年中、移^ニ弘^前一^來ル、^ニ天^和元^{年、}住^僧出^歩ノ^{後、}寺^及
頽^破ニ、^ニ而^唯其^号旧^地耳^在リ^{之、}
吾^ガ宗^會雖^レ佩^ニモ^ニニ^{スト}離^文字^ノ之^印、^ニ而^欲ス^スレ^ト事^者ノ[、]必^借ツ^テ文
字^ヲ而^以テ^爲ス^載事^ノ之^器モ^ト也、^ニ于^レ茲^耕春^住僧^黙道[、]承^ニ長^勝寺^主ノ^之
言^{ヲ、}而^選ニ^曹洞^諸寺^院縁^起也、^ニ葛^藤モ^猶可^レ見[、]糟^粕亦^有レ^味矣[、]
自^レ是^以後、^ニ要^知ニ^本末^新旧^宗派^異同^ノ事^者ノ[、]以^レ是^レ爲^ニ夜^行
之^灯ト[、]則^大可^レ無^レ錯^誤乎[、]隨^喜シ^テ因^ツテ^題ス^于後^{ニ、}
元禄壬午^孟秋^{七日}
革秀十一世^頭古^牛書
印^印 ^{印文・類也}